【東京都】

多角的な視点から

防災にふれる

トライ式高等学院・ごはん

高校生ボランティア・アワード2025

活動報告

①東日本大震災で被災した方へのインタビュー

▼zoomでのインタビューの様子

震災当時の様子や、震災を経験したことによる意識の変化について知るために、当時宮城県で被災された福島キャンパスのキャンパス長・斎藤さんにお話を伺いました。

②防災館の見学

▼＃7119を体験している様子

防災への意識をより高めることを目的に、池袋防災館の防災体験ツアーに参加しました。
実際に消火器を使用したり、東日本大震災（3.11）と同程度の揺れを体験したりすることで、防災の重要性を自らの体で実感することができました。

③青葉台キャンパスで防災啓発イベントの実施

▼青葉台キャンパスの生徒が
並べ替えカードゲームをしている様子

トライ式高等学院青葉台キャンパスに所属する生徒を対象としたイベントを開催しました。
初めての試みではありましたが、参加した生徒からの意見や貴重なアドバイスを多く得ることができ、有意義な機会となりました。

④川越キャンパスで防災啓発イベントの実施

▼川越キャンパスで
並べ替えカードゲームの説明をしている様子

川越キャンパスに所属する生徒を対象に、
2回目となる防災イベントを開催しました。
防災グッズに関するクイズや体験など、前回の反省を踏まえた工夫を取り入れることで、より充実した内容にすることができました。

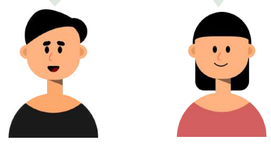
⑤茨城県水戸市の民間の学童で防災啓発イベントの実施

▼学童でのイベントで自己紹介をしている様子

茨城県水戸市の学童を訪問し、小学校低学年の児童を中心とした防災イベントを開催しました。
トライ式高等学院での
イベント運営の経験を活かしながら、防災を楽しく、そして「日常」の
一部として捉えられるような機会を提供しました。

楽しかったから
またきてほしい

実験が一番
面白かった

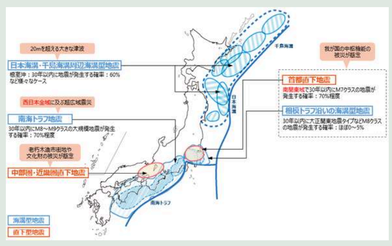


▼茨城県水戸市の民間の学童で
イベント実施後に行ったアンケートの様子

防災に「ふれる」

防災意識の現状

地震の発生が多い国として知られている日本は、世界の地震の10分の1以上の発生を占めている。
「南海トラフ地震」「首都直下型地震」などの
大地震が今後30年以内に発生するとの予想もされている
今、私たちは
今まで以上に防災意識を高めるべき状況下にあります。



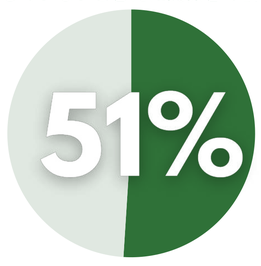
※発生予測確率は、地震調査研究推進本部による（平成29年１月時点）
▼引用:内閣府 防災情報のページ

アンケート結果からの考察

学校関係者90人に実施したアンケート結果によると**半数以上**が非常用持ち出し袋を**「用意していない」**と回答しました。

▼アンケートで得られた理由

用意していないと答えた関係者の割合

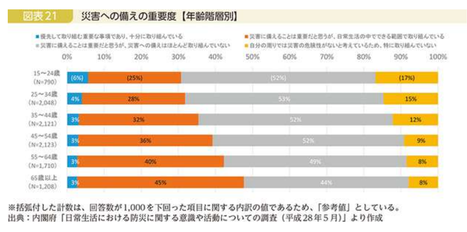


小学生は判断力や経験がまだ十分に育っていないため、
また中高生は、震災からの時間の経過によって防災意識が風化し日常生活の中で防災の重要性を実感する機会も少ないため、防災意識が低下しやすいと考察出来ます。
年齢や発達段階のそれぞれに応じた**防災教育の工夫と継続的な意識づけ**を行うことが重要です。

若い世代が
楽しみながら防災を学ぶ

防災を**日常**として捉える

防災意識の向上



▼出典：内閣府 情報防災のページ
平成28年版 防災白書｜図表21
災害への備えの重要度【年齢階層別】
年齢が下がるにつれて防災意識が下がっていることが読み取れる。

色々な視点から、楽しみながら

シルエットクイズ

▼乾パンのシルエットを映し出している様子。
様々な角度から形を見せたり、揺らして音を出したりしてヒントを出している。

非常用ラジオや非常食など、被災時に役立つ防災グッズのシルエットを映し出し、音や形などの手がかりをもとにその名称を当てるクイズを実施しました。
防災啓発イベントの導入として参加者の関心を高め、防災への意識を喚起することを目的にクイズ形式を採用しました。

▼シルエットクイズで使用した乾パン

▼シルエットクイズで使用した
手回しラジオ

体験コーナー

▼学童で簡易トイレの実験を行っている様子。
尿に見立てた水と凝固剤を使用し、固まる様子を観察している。

被災時の抵抗感の減少や速やかで正確な行動を可能にすることを目的に、
実際に使用するときの状況を再現した非常用トイレの凝固剤実験行いました。
また、シルエットクイズで取り上げた「手回しラジオ」や「非常食」に実際に触れ防災用品を身近にすることを目的としました。
体験型にすることで、被災時に混乱することのないよう工夫を施すとともに、
児童、生徒が実感を伴って学べるようなコーナーを実施しました。

▼体験コーナーで使用した携帯用トイレ

▼簡易トイレの説明スライド

並べ替えカードゲーム

▼オリジナルのカードゲームで遊んでいる様子。
「公衆電話の使い方」をグループで考えている。

身近なシチュエーションを集め、行動手順を並び替えるカードゲームを計7種類作成しました。
救急車の呼び方や公衆電話の使用方法に加え、スーパーやエレベーター内で地震が発生した際にすべき行動などをカードを用いて学習することで、行動の手順を記憶しやすくしました。
また、ゲームの時間を通して児童、生徒同士で意見を交換し合う機会を設けることを目的としました。

▼黄：少ない水で歯を磨く方法
赤：救急車のよび方のカード

防災意識向上に向けて

活動計画内容
小学校の放課後学級にて防災啓発イベントの開催
トライ式高等学院所属の高校生に向けた防災講座の開催
オンラインを活用した中等部向け防災講座の開催

トライ式高等学院川越キャンパス、水戸キャンパス、春日部キャンパスの3人が垣根を越えて
「防災を非日常ではなく日常として捉える機会を作りたい」
と活動を開始しました。
18歳以下の防災意識の向上を目標に、2024年11月から活動を行っています。